平成30年度第１回
東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会
資料評価部会（美術部会）

平成30年11月６日（火）

東京都江戸東京博物館　２階会議室

午後４時43分開会

藤生文化施設担当課長：本日は、お忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。

ただいまから「平成30年度第１回東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会　資料評価部会（美術部会）」を開催いたします。

私は、東京都生活文化局文化振興部文化施設担当課長の藤生と申します。本日の司会を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

資料収蔵委員会には、収集部会と評価部会がございます。収集部会は、江戸東京博物館の収蔵品としてふさわしいか否かを御審議いただく会、また、評価部会は、江戸東京博物館の収蔵品としての価格を個別の委員の方々に御評価いただく会となっております。

なお、10月31水曜日に収集部会を開催いたしまして、当部会でお諮りする案件につきましては、収蔵するのが適切であるという御意見をいただいております。

本日の評価部会は、都民の財産となる貴重な資料にふさわしい適正な価格評価をよろしくお願いいたします。

まず初めに、本日、東京都江戸東京博物館副館長の小林から御挨拶を申し上げる予定でございましたが、本日は欠席のため、事業企画課長の飯塚がかわって御挨拶を申し上げます。

飯塚事業企画課長：飯塚でございます。よろしくお願いいたします。

本日、副館長の小林が欠席のため、私が御挨拶の代読をさせていただきます。

本日は、お忙しい中、東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会の評価部会にお集まりいただきまして、まことにありがとうございます。今年度第１回の資料収蔵委員会となります。

本評価部会では、２件の美術品を評価していただく予定でございます。どれも常設展示室や展覧会での活用が可能であり、江戸東京博物館に必要不可欠な資料でございます。委員の皆様方には、御審議くださいますよう、何とぞよろしくお願い申し上げます。

藤生文化施設担当課長：本日、御出席いただきました委員の皆様を御紹介させていただきます。私の向かって左の席から順に御紹介させていただきます。

黒田委員でございます。

田辺委員でございます。

内藤委員でございます。

岡野委員でございます。

仲町委員でございます。

続きまして、事務局職員を御紹介いたします。

東京都江戸東京博物館事業企画課長の飯塚でございます。

それでは、これから議事に入りたいと思いますが、それに先立ちまして、当部会の公開について申し上げます。

当部会は「東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会設置要綱」第12の規定により原則公開

となっております。そのため、委員皆様のお名前と現職名は東京都のホームページ上にて公開しております。

一方で、当部会における評価対象資料の価格評価の部分に関する議事は、同要綱第12の第１項（１）の規定により非公開となっております。

なお、当部会の議事録は、同要綱第12の第２項の規定により、資料収集決定後、公開を予定しています。公開に当たりましては、事前に確認させていただきたいと考えております。同要綱第12の第２項（１）により委員個別の価格評価については非公開となります。

それでは、議事に入りたいと思います。

まず、飯塚課長から本日御評価いただく資料の説明をお願いいたします。

飯塚事業企画課長：説明の前に、お手元の資料の確認をお願いいたします。

一番上に会議次第がございます。

次に、A4の委員名簿がございます。

続いて、A4の「東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会設置要綱」が２枚ございます。

次に、A4の「平成30年度第１回資料収蔵委員会　資料評価部会（美術部会）説明資料」が１枚ございます。

続いて、A3横判の「平成30年度第１回資料収蔵委員会資料　資料評価部会（美術部会）」が２枚ございます。

最後に、A3横判で「平成30年度第１回資料収蔵委員会（美術部会）評価票」が１枚ございます。

なお、お配りしました名簿の肩書等に誤りがございましたら、恐れ入りますが、後ほど事務局へ御連絡いただければと存じます。

お手元にお送りました資料につきましては、現時点では未公開の情報が含まれておりますので、会議終了後、回収させていただきたく存じます。

また、白い封筒には、現在開催中の企画展「玉－古代を彩る至宝－」の御案内と招待券が入っております。お時間がございましたら、ごらんいただければ幸いでございます。

それでは、今回御評価いただく資料について説明いたします。A4の「平成30年度第１回資料収蔵委員会　資料評価部会（美術部会）説明資料」をごらんください。

１件目は≪隅田川窯場図屏風≫でございます。

江戸琳派を興した絵師、酒井抱一、1761年～1828年の作品です。

江戸郊外の名所として親しまれた隅田川上流のひなびた風景を描いています。六曲一双の屏風で､右隻に隅田川西岸に当たる今戸の瓦焼きの釜､左隻に隅田川を行く帆船と都鳥、東岸の向こうにそびえる筑波山の遠景が見えます。墨絵を主体として一部に淡彩を加え、柔らかく落ち着いた屏風絵に仕上がっています。この作品は、幕末期に編まれた『抱一画譜』に写しが収められていることから、抱一の真筆であることがわかります。

今戸焼・都鳥・筑波山はともに、墨田川を描く絵画によく使われるモチーフですが、今戸焼の釜を大きく扱い丁寧に描いている作品は珍しいと言えます。

酒井抱一は、尾形光琳に私淑したことで知られていますが、光琳の弟で陶芸家であった尾形乾山についても、江戸で没した乾山の墓の所在を突きとめて整備し『乾山遺墨』を刊行するなど、顕彰活動を行いました。抱一自身も自ら４世乾山を継承して作陶を嗜み、向島百花園の創業者である佐原菊塢が創始した「隅田川焼」を支援したといいます。こうした墨田川のやきものに寄せる愛好心が、抱一が本作で今戸焼の釜を主題に選んだ背景にあると考えられます。

墨田川沿岸の今戸地区は、かつて江戸東京の一大窯業地であり、瓦や生活雑器・茶器などの生産を通じて、市民の生活を支えていました。当館が精力的に収集に努めてきた今戸焼関係資料は、有数のコレクションとなっています。

本作は、江戸人が愛した墨田川の風景と産業の姿を描いた絵画資料として、当館のコレクションにふさわしいものです。常設展示「江戸の美」を初めとし、さまざまな企画で活用することを考えております。

続きまして、２件目は、≪浮世美人寄花　笠森の婦人　卯花≫でございます。

鈴木春信による明和５年から６年、1768年から1769年ごろの作品です。

鈴木春信、1725年ごろ～1770年は、錦絵の創始期に活躍した浮世絵師です。春信の錦絵は、明和期の初めに裕福な趣味人の間で流行した絵暦交換会で誕生しました。しかし、明和５年、1768年ごろから、茶屋娘や遊女など江戸市井の実在の美人を題材とし、錦絵を大衆に普及させていきました。

「浮世美人寄花」は、当時の江戸の評判の美人を花になぞらえ、その花を詠んだ和歌を添えて描いた、春信晩年のシリーズです。この≪卯花≫では、谷中笠森稲荷の水茶屋「鍵屋」の娘お仙を取り上げています。画面向かって右に描かれている茶を運ぶすらりとした美人がお仙です。茶椀２つを載せた盆を右手で持ち、蔦の紋をつけた無地の着物に縞の帯を締め、着物の裾からは下駄を履いた素足がのぞいています。春信は絵の中に娘の名前を書くことは少ないのですが、本図では「おせんより　つるや内」と記された手紙が床机の上に置かれています。雲の中の和歌は「続後拾遺和歌集」の「卯花のさかりならずは山がつのかきねに誰か心とめまし」を原拠とするとされます。

お仙と並び称された美人、浅草寺境内の楊枝屋「本柳屋」の娘お藤も、春信の錦絵に度々描かれました。当館は、同じシリーズでお藤を描いた≪浮世美人寄花　楊枝屋婦　菫菜≫を所蔵しています。本資料を収集すると、同じシリーズの２人のライバルがそろうことになります。なお≪菫菜≫の画中で、お藤が手にしている柱絵に描かれている女性は、このお仙です。

本作品は、若干の擦れや折れがありますが、用紙がほぼフルサイズで残存しています。春信の作品は一図当たりの作品の残存数が少なく、主要な作品の多くが海外に存在します。≪卯花≫は色・摺りの異なる作品がボストン美術館のビゲロー・コレクションにあるのみで、残存数の少ない極めて珍しい作品です。

常設展示「江戸の美」などで活用できる貴重な錦絵です。

説明は以上でございます。

藤生文化施設担当課長：今までで何か御質問や御意見等はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

続きまして、評価方法について説明いたします。

評価票に金額を記載し、御署名していただくことになります。評価額の最高価格と最低価格を除いた残りの価格の平均値を委員会としての評価額といたします。

こちらにつきまして、何か御質問等はございますでしょうか。

それでは､資料の実見をしていただきたいと思いますので､移動のほうをお願いします。

また、資料に関する個別の御質問につきましては、直接学芸員にお問い合わせをお願いします。

それでは、よろしくお願いします。

（委員離席）

（資料実見）

（委員着席）

藤生文化施設担当課長：どうもお疲れさまでした。

それでは、議事を再開させていただきます。

資料をごらんになりまして、何か御意見、御質問等はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

質問等がございませんようでしたら、お手元の評価票に価格評価と御署名をお願いいたします。なお、金額は消費税込みとなっておりますので、よろしくお願いいたします。また、お手元にボールペンを用意しておりますので、そちらのボールペンのほうで御記入をお願いいたします。

では、よろしくお願いします。

（評価票記入）

藤生文化施設担当課長：御記入がお済みになった方は、係の者が確認いたしますので、お声かけください。確認が終わりましたら、御退席いただいて結構です。本日は、ありがとうございました。

午後５時21分閉会

以上